

クラウド型経営支援ツール「bixid」 情報共有機能を高めパワーアップ

仕訳データの活用で会計事務所の業務効率を高める付加価値創造ソフト「財務維新」（販売元＝株式会社YKプランニング、山口・防府市。代表取締役＝岡本辰徳氏）をベースとしたクラウドサービス「bixid（ビサイド）」。その進化が加速している。

「bixid」は、いつでもどこでも企業の経営状態を把握できるクラウドツールというコンセプトで、会計事務所が顧問先を招待するだけで、会計データだけでなく双方の情報共有が図れるシステム。無料から開始できるプランもあるというから驚きだ。

クラウド経由で会計データをアップロードすれば、リアルタイムに財務状況や財務分析が行える点はもちろん、コミュニケーション機能も充実させている。例えば、毎月の財務状況をボックス図で見られる「モニタリング」をはじめ、グラフや表を使って経営を可視化する「月次レポート」。また、レポートの気になる数字にコメントが残せる「コメント機能」や「企業間チャット」などが実装されている。パソコンだけでなくスマートフォンで確認することが可能な

「経営支援型財務システム」として、さらなる機能アップが図られている。

今夏には、顧問先へ訪問しなくても月次監査が行える機能や、経営計画策定機能が追加される予定だ。

このように、「bixid」は会計事務所と顧問先の双方向のコミュニケーション機能を備えていることから、今回の新型コロナウイルスの影響でリモートワークが課題とされる中でも、リモートワーク環境が容易に作りだせる。

ユーザー事務所の中には、顧問先以外の企業に対して財務モニタリング、決算診断、月次レポート、経営計画等をセットにした「bixider（ビサイダー）プラン」を提供する動きもある。資金繰りや財務改善、経営者の意思決定を支援する付加価値ツールを活用することで、会計事務所の新たな収益源となるという。

同社では、会計データのやり取りだけでなく、顧問先の経営者に有益なコンテンツをさらに開発していく予定で、「企業のサポーター役となる会計事務所をしっかりと支援していきたい」（YKプランニング営業本部本部長の宗近隆史氏）としている。